

遠野地区交流会報告

とおの社協だより 2 回目掲載

日 時：令和6年3月22日（金） 10：00～12：00

場 所：遠野市総合福祉センター第2・3会議室

参加者：15名（遠野川柳会 副会長、他2名 非会員1名、端坂幹事含む）

内 容

① 代表世話人（菊池正晴さん）挨拶

② 簡単リハビリ体操（佐々木定則世話人の娘さん、お孫さん二人）

佐々木定則世話人の娘さんが各種リハビリ体操の模範を示し、お孫さん二人と一緒に参加者全員が行った。お孫さん（女の子）と一緒にやっているせいか、ほっこりとした雰囲気にもまれたリハビリ体操だった。（精神的なリハビリにもなった）

③ なんでも相談会（端坂幹事対応）

佐々木定則世話人が参加者を指名する形で質問を受け付けた。

【ジスキネジアに関すること（処方変更後ジスキネジアが酷くなった）】

・EC ドパールの処方量が多く、ジスキネジアが酷かった。処方量を減らしジスキネジアは少なくなったが、体重が増えてきたので EC ドパールからマドパーに変更された。マドパーを服用するとすぐにジスキネジアが酷く出てたえられなかったが、家族に盛岡のクリニックまで送ってもらっているの、薬が合わないといわかって簡単に通院できないため、1か月後の通院予約日まで我慢した。通院したところ、EC ドパールに戻され、ジスキネジアは少なくなった。

端坂から

・パーキンソン病の治療薬は副作用が多いため、私が通っていた順天堂大学病院では二週間で大体副作用（食欲不振、吐き気、身体がだるい等）は収まるので服薬変更がある場合は二週間後に通院予約がとられる。酷い副作用が出た場合は予約日を待たずに電話連絡するように指示される。

・私も変更、追加された薬を服用してすぐに酷い吐き気、眩暈がでて耐えられなかったので電話で主治医に状態を伝えたところ、変更、追加された薬は中断して明日予約外で診察するので来て欲しいといわれ処方変更された

→副作用が酷い場合はすぐに主治医に電話し状況を伝えること。今回の場合は EC ドパールからマドパーに変更して酷いジスキネジアがでたのだからマドパーを中止して EC ドパールに戻すよう指示されるはずである

【処方されている薬の効果が感じられない】

端坂から

- ・漠然とした薬の効果が感じられないではなく、状態記録表等を利用して客観的に主治医に伝えないと服薬変更ができない

【パーキンソン病との診断は正しいのか】

- ・パーキンソン病と診断され、薬が処方されたが症状が改善されなかった。パーキンソン病との診断正しいのか疑問に思ったため、岩手医科大学病院に3週間入院して検査してパーキンソン病と診断され薬が処方され症状がされた。3週間も入院しなければならないのかと思ったが、現在はしっかり検査してもらって良かったと思っている。

端坂から

- ・パーキンソン病は専門医でないと診断が難しい。正しい診断を受けて正しい治療を受けることが大事である。今の主治医の説明に納得できない場合や処方薬の効果が感じられない場合はパーキンソン病専門医（検査設備が揃っているのは岩手医科大学病院）で診断を受けることをお勧めする。

④ 川柳を学ぶ

遠野市川柳会の副会長、他2名の指導のもと家族をテーマに持ち時間15分で参加者全員で川柳を作り、講師がホワイトボードに参加者の川柳を記入し、各自良いと思う川柳を3作品選ぶ。選ばれた票数で順位づけし、講師がコメントする。

川柳になじみがないが、集中できて良かったと好評だった。